

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101849		
法人名	医療法人 萌梅会		
事業所名	総合介護センターあおばの里 【ユニット名:もくれん】		
所在地	和歌山市湊1115-55		
自己評価作成日	平成30年7月16日	評価結果市町村受理日	平成30年9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_prof_search_list_list=true&amp;PrefCd=30">http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_prof_search_list_list=true&amp;PrefCd=30</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成30年8月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が施設に閉じこもらないように、社会とふれあえるように、ボランティア活動の方に来ていただいたり、ドライブだったり、近所の喫茶店でお茶を飲んだり、ケーキを食べたり、美術館で絵画の鑑賞をしたりと、外出の機会を、増やしています。車いすの方が増え、なかなか一斉に出かけることは難しいですが、少人数にして数回に分けることで外出を可能にする努力をしています。デイサービスがお休みの日には、デイルームを利用してA棟B棟C棟の利用者様と合同でゲームをしたりして日常の中に変化をつけメリハリをつけ生き生き過ごして頂けるように努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護保険制度開始当初に開設され、長い経験を持つ3ユニットのグループホームである。利用者の高齢化や重度化で車椅子を使用する人数が増えたことから、少人数単位での外出の機会を多くしたり、利用者にきめ細やかな言葉かけを心がけている。その人らしい自立支援に熱心に取り組み、利用者に目標を持ってもらうことで生活の活力が生まれている。作品制作では、手先のリハビリ効果や考えることで会話も広がり、共同作品展への出品が喜びや遣り甲斐、意欲の向上につながっている。職員は、3ユニットの利用者全員を把握しており緊急時にも対応可能な体制が整っている。研修や会議で常に新しい課題に取り組み、喀痰吸引の対応も可能である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をもとに利用者様へのサービスを提供することで実践につなげている	理念は3ユニット共通であり、利用者が自分らしく暮らすことと地域に開かれた「あおばの里」を目指して、全職員が理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、自治会の行事に参加したり事業所の行事にお誘いし、運営推進会議等、地域の方達と利用者様との交流を図っている	自治会に所属し、地域交流を大切にしつつ地域の情報も得るようにしている。地域の町内会や近隣住民との関係性は良好で、散歩で挨拶を交わしたり、住民が行事に参加して交流をもっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流の場で認知症の理解や、コミュニケーションの取り方などをお伝えし、地域の方への啓蒙活動に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では参加して下さった地域の方や、ご家族と共に意見を交わし、その意見を参考にサービス向上を進めている	3ユニット合同で開催している。自治会会長・副会長は毎回出席があり、本人や家族の出席も多い。地域で花見ができるように遊歩道に桜を植樹する提案がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の方達とは、常に連絡、報告、相談を、行い、アドバイスを頂いたり協力関係を築いている	市の介護保険課には、日頃から状況に応じて電話や、直接出向いて相談や報告などを行っている。地域包括支援センターとも連携をとり、市の福祉事務所に生活支援の相談にも応じてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を、設置し全ての職員に、身体拘束とはどういうものかを理解してもらい身体拘束禁止の徹底化を図っている	日中は玄関の施錠をしていない。家族からの四方ベッド柵使用の要望に対しては、拘束しない方法を丁寧に説明して了承を得ている。職場内研修が充実しており、研修後のレポートを回覧して取り組み、言葉による拘束も行うことがないように注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても身体拘束防止委員会を利用し虐待防止について学び虐待禁止の徹底に努めている		

【事業所名】総合介護センターあおばの里【ユニット名:もくれん】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についても身体拘束防止委員会を、利用し日常生活自立支援事業や、成年後見制度を学ぶ機会を作っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定については利用者様や、家族様に十分な説明をさせていただき理解、納得して頂けるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱を設け、利用者様、ご家族様は、もちろん管理者、職員も要望を伝えやすくし、その要望に対応できるようにしている	玄関の意見箱は、ほとんど活用されていないが意見が聞けるよう家族の来訪時には職員が積極的に声をかけている。本人の様子を詳細に説明することで要望や意見が言いやすい関係づくりに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を行い職員同士の意見を、交換し、その意見を、サービス向上に反映させている	リーダー会議を月に1回実施して各ユニットの職員からの課題を元に意見交換している。経営母体へも報告して、職員の意見や提案が適切に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を定期的に行うことで職員の希望や悩みを聞き実績や勤務状況の把握に努め職場環境や条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会の実施、参加は当然のこととして、お互いの知識の交換や技能のトレーニングに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間の交流の場に積極的に参加しネットワーク作りや研修活動を通じてサービス向上に活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人の情報を関係者から得、そのうえで本人と面談し本人に要望などを伺うことで信頼関係を構築する努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に関してご家族の要望や不安に耳を傾け、一つ一つ丁寧に対応させていただくことで信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応時には、優先順位をつけ、まず必要な支援から進め、それに沿って次の支援へと対応していく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が馴染みの暮らしを過ごして頂くというコンセプトのもとで共に暮らすという関係を築こうとしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を大切にし職員と共に、ご本人を支えるという関係を築こうとしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでのお付き合いのある方とのきずなも大切にし面会の機会や、外出の機会を支援させて頂いている	馴染みの知人などの訪問が多く、気軽に訪問できるような雰囲気を心がけている。利用者の高齢化によって、以前は同行していた自宅やお墓参りの機会は少なくなっているが、要望があれば対応可能である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格を把握しスタッフが間に入って、お互いに、うまく付き合えるように支え合えるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、これまでの関係性を大切にし、ご本人やご家族の相談や支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや希望を把握し、その思いに沿ったサービスを心掛けている	それぞれに寄り添う対応を心掛けて、日々の会話の中で思いを感じ取り、ケアに反映している。利用者の思いを共有して歩行能力を鍛えて自宅復帰を目指す取り組みを行い、自宅復帰が実現した実績がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人から、そして関係者から情報を収集し、ご本人の理解を深めるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方を観察し各々の心身状態や能力の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の支援については、チームで支援にあたるよう、スタッフ間で情報を共有し意見を出し合うようにしている	リーダー・副リーダーが利用者や家族と話し合い利用者の望む暮らしを計画書に反映している。状態の確認や観察を連絡ノートに記載して職員間で共有して、必要に応じて計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をすることで実践、結果、気づきや工夫をスタッフ間で共有し介護計画の見直しに役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに応じ、臨機応変な対応、柔軟な支援を目指している		

【事業所名】総合介護センターあおばの里【ユニット名:もくれん】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や、ボランティアの方達との交流を大切にし心豊かに暮らせるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院からの定期的な往診と本人や家族様からの要望に応じた受診が出来るよう支援している	入居前の医療機関も継続できるが、経営母体である病院の往診を希望する利用者が多い。眼科、歯科とも連携し往診を受けている。通院は家族対応が基本となるが、状況に応じて職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院～看護師さんが定期的に訪問してくれて、心配事や相談を受け付けてくれ適切な受診に対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には関係者が情報を共有し、速やかに治療が進むように、又、退院時にも情報を共有することでスムーズに受け入れられるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や、終末期については、早い段階から、本人や家族、関係者を交えて話し合いを行い事業所が出来ることとできないことを、十分に説明し方針を共有し協力し合う	重度化や終末期の意向を事前に聞いている。経営母体の病院は緊急診療や入院は24時間体制である。希望があれば病院と連携して見取りケアも可能で、喀痰吸引研修修了者の職員が複数在職している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は、応急手当や初期対応の研修、訓練を定期的に行い手順の確認をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員に避難通路の確認を徹底し、地域と連携し避難場所を確保できるように協力体制を整えている	年2回避難訓練を実施、うち1回は消防署の協力がある。最近、近所の工場で火災があり、避難指示が出たため2階は避難用滑り台も利用して系列施設に全員で避難した。避難訓練が実践の場で活かされた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護の研修を重ねることで人格尊重、プライバシーの保護などへの職員の認識を、確認している	拘束防止委員会、虐待防止委員会が2ヶ月毎に研修を行い、権利擁護や尊厳について話し合いの機会を持っている。活用してスキルを高め、実践に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、些細な事でも職員に訴えられるように信頼関係を、築くよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の予定など、決まった予定は、あるものの、一人一人のペースをつかみ、そのペースに合わせて予定をたて希望に沿った支援をするようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みに応じ、その人らしい装いが、出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なかなか一緒に準備するのが、難しい状況であるが嫌いなものは食材を変更したり準備の時には、食材の話題を提供したりして食べるのが楽しみになるように支援している	食事は委託の業者が作り、とろみ食や刻み食は個々の状態に適した形態に職員が手を加えている。週2日は利用者も一緒にホットケーキ、わらび餅やおはぎを手作りしている。食事イベントを合同開催している。	調理は業者委託であるが、利用者の好みも取り入れ、おやつ作りに加えて食事の際にも利用者と一緒に行動する機会を提供できるよう期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の食事量や、水分量を記録することで各々の状態を把握し少ない人には食事を工夫したり水分摂取を促すよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの時間を、設け、各々の状態に合わせた口腔ケアを、実施している		

【事業所名】総合介護センターあおばの里【ユニット名:もくれん】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレに誘導したり排泄を促す声掛けなどでトイレでの排泄の習慣がつくように支援している	オムツ使用の利用者が増えているが、一人ひとりの排泄リズムを把握して声かけを行い、誘導をしてトイレでの排泄を支援している。夜間就寝時にオムツ使用であっても日中はリハビリパンツに履き替えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄の個性を理解し水分摂取や、食事の工夫、運動の推進に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴の曜日、時間帯は、決めているが個々の状況、状態、希望に応じて対応している	週2回の入浴を基本に、必要時は臨機応変に対応している。一般浴は各ユニットにあり、機械浴が1ヶ所ある。機械浴対応が必要な利用者が増えたため、3ユニットの職員が協力して入浴介助に当たっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の習慣に合わせ、昼寝をして頂いたりもするが夜に、ゆっくり休んで頂けるように昼間は出来るだけ活動的に過ごして頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の処方薬を理解し服薬時間帯には、名前、日付を、複数人で確認し症状の変化などよく観察する		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしさを活かす為、生活歴や、出来ることを考え、活力がわくような過ごし方をしして頂けるように考えている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	急な希望には、応じられなくても外出の機会を増やし各々の希望に応じた外出の支援をしている	希望に応じて衣類の買い物同行や少人数で回転寿司やケーキとお茶に出かけている。花見など季節感を感じられるところへ望まれる遠出もしている。美術館や博物館に行った時のコーヒーも恒例の楽しみになっている。	



【事業所名】総合介護センターあおばの里【ユニット名:もくれん】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	色々な事情を、抱えた方もいらっしゃる為、すべての方の希望にこたえられないが、お金を所持したり使ったり出来るように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては状況を判断の上対応させていただき郵便物に関しては、すべて必ずお渡しし、家族様にも連絡させて頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、リラックスできるよう照明や、温度、湿度に気配りし居心地の良い空間づくりに努め、トイレなどについては清潔をモットーに落ち着いた空間にしている	共有空間に利用者の季節を感じられる手作り作品を展示している。車椅子の利用者が多く、リビングが多少手狭になっているが、利用者同士や職員との距離が近く、各自が声を掛けやすく家庭的な雰囲気が漂っている。	現在はあまり使用しない共用スペースの隅に置かれている物を別の場所に移動することで利用者の寛げる場が広がり、職員の作業移動がしやすく効率的になることを希望する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、それぞれ談話したり、時には皆でレクリエーションを、楽しんだり、また一人で好きなように過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の場合は、使い慣れたものを、使い、それまでのご自分部屋と同じような雰囲気作りにも努め居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、自宅での馴染みの物で囲まれ、シンプルに必要な物を整頓して置き、家族の写真飾ったりとその人らしい個性のある部屋に整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活して頂けるように、建物内部の設備には、わかりやすいように看板を掲げ職員は、関わりあいながら見守りしている		